



TRANSLACE Tetheringシステム

再使用禁止

【禁忌・禁止】

1. 適用対象(患者)

- 1) 金属アレルギーを有する患者
- 2) 活動性の感染過程にある患者、又は免疫不全等の重大な感染リスクがある患者[敗血症等の重篤な合併症併発の可能性がある]
- 3) 妊娠している患者[手術中の確認の際に使用するX線撮像による胎児の被ばく等がある]

2. 併用医療機器

ステンレススチール材質のインプラント及び他社製のインプラント(「相互作用」の項参照)

3. 使用方法

- 1) 再使用禁止
- 2) 再滅菌禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状(一例)

本添付文書に該当するインプラントの製品番号、サイズ等に関しては、包装表示ラベル又は本体に記載。

＜脊椎ケーブル＞

＜脊椎コネクター＞



2. 機能

＜脊椎ケーブル＞

骨とインプラントの固定を行う。

＜脊椎コネクター＞

脊椎ロッドと脊椎ケーブルを連結する。

3. 材質

＜脊椎ケーブル＞

ポリエチレンテレフタレート

純チタン(ASTM F67)

＜脊椎コネクター＞

チタン合金(ASTM F136)

4. 原理

脊椎コネクターを用いて、脊椎ロッドと脊椎ケーブルを連結することにより、脊椎を固定する。

【使用目的又は効果】

本品は、脊柱変形、外傷、腫瘍、変性椎間板症、脊椎すべり症、偽関節等の脊椎障害のため、脊椎固定術の適用が必要とされる患者に対する胸椎、腰椎の脊椎後方固定術に用いられる脊椎内固定器具であり、脊椎の一時的な固定、支持又はアライメント補正を行う。

【使用方法等】

1. 使用方法

本品は滅菌済みの製品であるため、包装に破損及び亀裂等がないことを確認する。

本品は再使用できない。

手術器械は、製造販売業者が指定するものを使用すること。

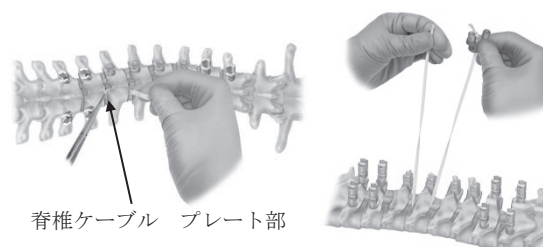
本品の一般的手技は以下に示すとおりである。

なお、本品は脊椎スクリューや椎体フック等の脊椎後方固定インプラントと共に使用するようにデザインされているものである。

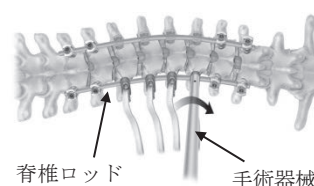
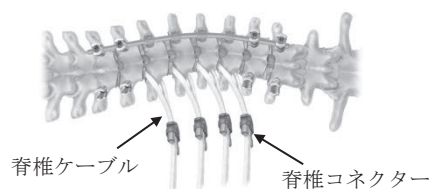
- 1) 脊椎ケーブルを脊椎コネクターに通す。



- 2) 脊椎ケーブル プレート部を適度に弯曲させ、脊椎ケーブルを椎弓下に通す。

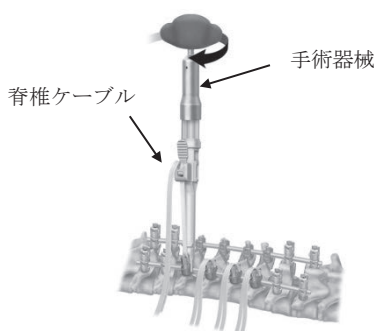


- 3) 再度脊椎コネクターに脊椎ケーブルを通し、脊椎コネクターを脊椎ロッドに仮止めする。

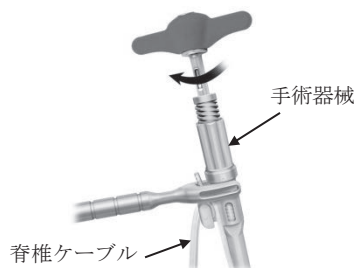


使用するインプラントの手技書を必ず参照すること

- 4) 脊椎ケーブルを手術器械に取り付け、テンションをかける。



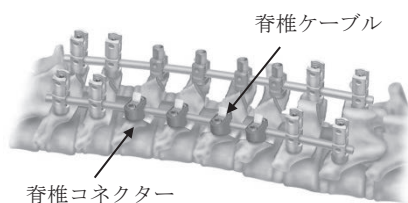
- 5) テンションをかけた後、脊椎ケーブル側のナットを仮止めする。



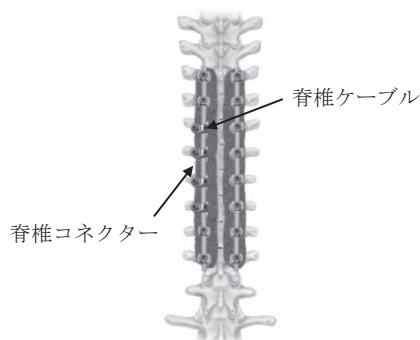
- 6) 手術器械を用いて、セットスクリュー、ナットを最終締結する。



- 7) 余分な脊椎ケーブルを取り除く。



<完成図例>



- 8) 閉創する。

- 9) 原則として、骨癒合の完成を確認したら抜去を行う。抜去の際は、手術器械を用いてインプラントを取り除く。

[使用方法等に関連する使用上の注意]

- 1) 脊髄及び神経根周辺部に対して常に細心の注意が必要である。神経の損傷は神経機能障害の原因、血管の損傷は血液損失及び体内の血液供給減少の原因となる可能性がある。
- 2) インプラントの破損、移動、ずれ又は誤使用は患者及び術者を傷つける可能性がある。
- 3) コンストラクト(立体的な組立て構造)の機能的強度を低下させる原因となり得るので、インプラントの表面に傷をつけないこと。
- 4) 脊椎ケーブルに不適切なテンションがかからないように注意すること。患者の骨の状態次第では、椎弓や横突起が損傷する可能性がある。
- 5) 矯正時に過度なテンションがかかると、患者に損傷を与える可能性がある。
- 6) 骨癒合不全を防ぐために、固定部位及びその周辺に必ず骨移植を行うこと。骨移植を行う際は、可能な限り自家骨移植を行うこと。
- 7) セットスクリュー及びナットをねじ切る際は、ねじ切った不要部分が術野内に残らないように注意すること。閉創前にねじ切った不要部分をすべて取り出したことを確認すること。
- 8) 軟部組織を閉創する前に、すべての脊椎スクリュー、セットスクリュー及びナットが緩んでいないことを確認すること。これらの確認を怠ると、インプラントの緩みの原因となる可能性がある。

【使用上の注意】

1. 使用注意(次の患者には慎重に適用すること)

次の患者については、治療上の有益性が手術上の危険性を上回ると医師が判断した場合のみ使用すること。

- 1) 骨吸収をきたす疾患、骨軟化症、骨粗鬆症[骨癒合不全の可能性はある]
- 2) 術部における炎症の兆候がある患者[症状増悪の可能性はある]
- 3) 脊椎固定術の効果を妨げる可能性のある内科的又は外科的症候を有する患者(先天性異常の存在、原因不明の赤血球沈降速度の上昇、白血球数増加、白血球分画の著名な左方移動等)[後合併症を起こす可能性がある]
- 4) 先天性異常によって解剖学的構造が著しく歪んでいる患者[期待した効果が得られない可能性がある]
- 5) インプラントの使用により解剖学的構造や通常の生理学的機能が損なわれる患者[期待した効果が得られない可能性がある]
- 6) 病的肥満[体重負荷によりインプラントの変形等の不具合を起こす可能性がある]
- 7) 栄養不良[十分な骨代謝が行われない可能性がある]
- 8) アルコール依存症又は薬物依存症患者[術後指示が守られない可能性がある]
- 9) 喫煙者[骨癒合不全の可能性はある]
- 10) 神経麻痺を有する患者[症状が悪化する可能性がある]
- 11) 骨量又は骨質が不十分な患者[骨折を誘発する可能性がある]
- 12) 術部の閉創が困難な患者[感染の可能性はある]
- 13) 精神疾患[術後管理が困難となる可能性がある]
- 14) 重度の骨折[期待した効果が得られない可能性がある]
- 15) 神経筋障害[インプラントに過度な荷重がかかる可能性がある]

*** 2. 重要な基本的注意**

- 1) 本品は、脊椎スクリューや椎体フック等の脊椎後方固定インプラントと共に使用すること。
- 2) 手術に関しては、当社が指定した手術器械を使用すること。
- 3) 金属に対する過敏症があると疑われる場合は、術前にインプラント選択のためのアレルギーテストを行うこと。
- 4) 骨癒合の完成前に、過度及び早すぎる体重支持又は筋肉運動により、インプラントの変形、緩み、破損、転位及び脱転の危険性が増加する可能性があるため注意すること。
- 5) 機械的振動や衝撃はコンストラクトの損傷を引き起こす可能性がある。患者は運動(物を持ち上げる、体をひねる等)及びスポーツへの参加を制限する必要がある。また転倒や脊椎部への衝撃を避ける必要がある。
- 6) 骨癒合遅延又は骨癒合不全が起こった場合、インプラントに繰り返し過剰な負荷がかかり、インプラントの変形、緩み、破損を引き起こす可能性がある。
- 7) 術後は、適宜画像診断によってインプラントの状態及び骨癒合を確認すること。
- 8) 骨癒合完成のためには医師の判断により、装具(外固定具)を適切な期間着用すること。
- 9) 骨癒合するまでの間、喫煙又はニコチン製品の使用、アルコールの摂取を控えるように指導すること。また、非ステロイド性抗炎症薬(アスピリン等)は注意して処方すること。
- 10) 骨癒合後又は患者の状態に合わせインプラントの交換又は抜去の必要性について検討すること。
- 11) インプラントの抜去は医師と患者が相談の上、決定すること。

* 12) 本品については、試験によるMR安全性評価を実施していない[自己認証による]。

3. 相互作用

- 1) 併用禁忌(併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ステンレススチール材質のインプラント及び他社製のインプラント	腐食による不具合を生じるおそれがある。	ステンレススチール材質の場合、金属間の電位差により腐食が発生する。他社製のインプラントは材質が不明であるため、腐食が発生するおそれがある。

4. 不具合・有害事象

以下の不具合・有害事象の中には、対処のための手術時間の延長又は再手術が必要になる場合がある。

- 1) 重大な不具合
 - (1) インプラントの緩み、分解、変形、移動及び破損
 - (2) X線、MRI、CT画像へのハレーション等の干渉
 - (3) MRIによるインプラントの発熱
- 2) 重大な有害事象
 - (1) 破損したインプラントの体内遺残
 - (2) 感染
 - (3) 癒合不全(偽関節)、癒合遅延、癒合不良
 - (4) 硬膜裂傷、偽髄膜瘤、フィステル(瘻孔)、脳脊髄液の漏出、髄膜炎
 - (5) 麻痺(完全麻痺あるいは不全麻痺)、知覚不全、知覚過敏、知覚麻痺、知覚異常、神経根障害の発症、疼痛、しびれ、神経腫、痙攣、感覚喪失を含む神経機能の障害

- (6) ニューロバシー、神経機能低下(一過性又は永続的)、対麻痺、反射低下、筋力低下、馬尾症候群
- (7) 神経機能障害や神経周辺の圧迫、あるいは疼痛の原因となる可能性のある癒痕形成
- (8) 創傷壊死、創傷離開、創傷治癒不良
- (9) 術部やその隣接部位の椎骨及び移植骨の骨折、微小骨折、骨癒合不全につながる骨吸収、損傷、貫通、移植骨の脱転又は突出
- (10) ストレスシールドディング(応力遮蔽)によって起こる可能性のある骨量減少
- (11) 術後の脊椎弯曲、矯正・身長・整復の喪失
- (12) 術部やその隣接部位の椎間板ヘルニア、椎間板損傷又は変性及び不安定性
- (13) 脊椎の可動性や機能の喪失又は脊椎の不安定性の増強
- (14) 日常生活動作(ADL)の低下
- (15) 術部の骨成長停止
- (16) メタローシス、組織の着色、腫瘍形成や自己免疫疾患及び癒痕形成を含む、インプラントやその破片に対する異物反応
- (17) インプラントの組織への圧迫による、皮膚穿孔、刺激性の炎症、繊維化、壊死、炎症性の疼痛
- (18) インプラントの不適切な配置やインストゥルメントの不適切な使用が原因で起こる組織や神経の損傷
- (19) 出血、血腫、血管損傷
- (20) 静脈炎
- (21) 塞栓症、脳卒中
- (22) 漿液腫
- (23) 浮腫
- (24) 椎間板炎、クモ膜炎、又はその他の炎症
- (25) 消化器系障害(胃炎、腸閉塞、排便機能障害等)
- (26) 呼吸器系障害(肺塞栓、無気肺、気管支炎、肺炎等)
- (27) 泌尿器系障害(尿閉、膀胱機能障害等)
- (28) 生殖器系障害(不妊症、夫婦生活の喪失等の性機能障害等)
- (29) 精神状態の変化
- (30) 死亡

3) その他の不具合
インプラントがその使用目的を完遂した後も抜去されない場合、下記のような不具合が起こる可能性がある。

- (1) 局所的な組織反応又は疼痛を伴う腐食
- (2) 損傷に至る可能性のあるインプラントの転位
- (3) 抜去を不可能にする変形、緩み及び損傷

4) その他の有害事象
インプラントがその使用目的を完遂した後も抜去されない場合、下記のような有害事象が起こる可能性がある。

- (1) インプラントの存在に起因する疼痛、不快感又は知覚異常
- (2) ストレスシールドディングによる骨損失

5. 高齢者への適用

高齢者は一般的に骨量・骨質が低下している場合が多く、本品の緩みや固定不良等の不具合の発生頻度が高くなるおそれがあるため、慎重に適用及び術後管理を行うこと。

6. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

1) 妊娠している患者への適用については【禁忌・禁止】の項を参照

2) 小児等に対する適用は、重要な基本的注意及び不具合・有害事象に加え、下記のような不具合・有害事象の可能性も考慮すること。

- (1) 解剖学的な問題(ペディクルの大きさ、骨格の歪み)により脊椎スクリューの使用が不可能になる

- (2) 神経損傷又は血管損傷を伴う、あるいは伴わない脊椎ケーブル又は脊椎コネクターの位置不良
- (3) 後弯変形
- (4) 膵炎
- (5) 骨成長の抑制、あるいは脊椎前方の継続的な成長による脊椎の回旋変形(クランクシャフト現象)

【保管方法及び有効期間等】**1. 保管方法**

- 1) 高温・多湿・直射日光を避けて室温で保管すること。
- 2) 水等の液体の影響を受けない場所に保管すること。

2. 有効期間

外箱に表示

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**Medtronic****【製造販売業者】**

メドトロニックソファモアダネック株式会社

【製造業者】メドトロニック ソファモア ダネック
ユーエスエー インク

Medtronic Sofamor Danek USA, Inc

アメリカ合衆国